

わたしとあなたでインター・ビュー

話し手と聞き手でつくりだす

やさしくただしくおもしろく

インター・ビューによる探究

総合的な学習の時間では、インター・ビューによる探究活動に取り組んでいます。私たちの探究活動では、「インター・ビュー」ではなく「インタビュー」という言い方をしています。一般的によく耳にするのは「インタビュー」ですが、「インタビュー」には「インタビューする人とインタビューを受ける人」という意味があります。力を合わせて、新たな発見を目指していく「営み」という意味があります。

「自分の知らない情報を持っている相手から、知りたい情報を聞き出す」のではなく、「インタビューをしている過程のなかで、聞き手はもちろん、話し手本人ですら気づいていなかった(自分で明確に意識していなかった)ことを明らかにしていく」という共同作業に、子どもたちは苦戦しつつも取り組んでいます。先週の探究活動では、インタビューの方法を学んだあと、実際にインタビュー・ビューに取り組んでみました。新型コロナウイルス対策もあり、放送を使って各教室での実施でした。

放送スタジオにはゲストとして、金丸賢一校長先生にお越しいただきました。2グループの子どもたちが、金丸校長先生に対して、およそ30分間、インタビューを行いました。テーマは「自分の好きなもの・好きなこと」です。金丸校長先生は、子どもたちの質問に対して、一つ一つ、丁寧に答えてくださいました。ときにユーモアをまじえたやりとりは、聞いていてとても楽しいものでした。

放送を聞いているあいだ、子どもたちはメモをとりながら、金丸校長先生がいったいどのような人物なのか、子どもたちなりにまとめていきました。

子どもたちの作成したレポートとふりかえりをご紹介します。

2年C級 27番 中尾 修介

中尾修介さんの作品です。この作品を見ると、金丸校長先生の「頭の中」がどうなっているのか、よくわかります。何より、見ていて楽しいです。作品の左上には「結論」がまとめられています。このレポートを金丸校長先生が読んだら、いったいどのような感想をもたれるでしょうか。中尾さん、校長室に行ってみましょう。

菅さんが書いている「本物のインタビュー」を目指して、これからも探究活動に取り組んでいきます。次回には子どもたち同士による「好きなもの・好きなこと」のインタビュー・ビューです。

この活動に取り組んだふりかえりとして、菅海海さんは次のように書いています。

今まで僕がしてきた「インタビュー」は、本物ではなかった。今日の学習で分かったこと考えたこと、それは、「本物のインタビューでは、インタビューの生活・人生・人間性が見える」ということ。僕は今まで行ったインタビューで「聞いたことに対する返答」しか情報を得ることができなかった。しかし、今日のインタビューを聞いてみると、自然と金丸先生が「どんなことを楽しんでるのか」「どんなことをみんなに伝えたいのか」「どんなことを大事にして生きてきたのか」といったことが、とても伝わってきた。

これから先、またたくさんの方にインタビューをするだろうが、質問からその人の深いところを探るイメージでインタビューをしたいと思う。それが、本物のインタビューにつながると思った。

この活動に取り組んだふりかえりとして、菅海海さんは次のように書いています。